

南東北グループ 医療法人財団 健貢会

総合東京病院通信

2019.6

Vol. 80

〒165-8906 東京都中野区江古田3-15-2

TEL. 03-3387-5421(代)

南東北グループ 医療法人財団 健貢会

総合東京病院通信 Vol.80

●編集・発行／総合東京病院

特集

もの忘れが気になったら
認知症を理解しましょう

総合東京病院
もの忘れ外来
東京医科大学高齢診療科主任教授

羽生 春夫

認知症は高齢者にみられる最も多い病気の1つで、65歳以上の老年者の4人のうち1人が認知症またはその前段階といわれています。認知症の原因として多くの病気がありますが、適切な対応によって治療できるものや進行を抑えることができるものもあり、早期に診断し適切な対応を施すことが重要です。

■認知症とは？

もの忘れから始まり、やがて判断力も低下し、進行すると着替えや食事などの生活動作が難しくなってくるため、周りの人たちの介護が必要となってきます。

これは中核症状といわれますが、その他に行動心理症状（BPSD）といわれるさまざまな行動異常や精神症状がみられる場合があります。多くは脳の病気で起こりますが、その中で代表的なものがアルツハイマー型認知症です。

■早期発見、早期治療

もの忘れは、健康な高齢者でみられる場合（生理的健忘）から、さまざまな原因による認知症（病的健忘）によって起こる場合まであり、早期診断と鑑別は決して容易ではありません。そこで、神経心理検査（記憶力をみる）や脳の画像検査などの補助検査が行われます。特に、脳梗塞や脳萎縮をみる検査（MRI検査 図1）とSPECTとも呼ばれ、脳の血流低下パターンをみる検査（脳血流検査 図2）を行うと、アルツハイマー型認知症の早期診断や他の原因による認知症との鑑別も可能となります。



PET-CT装置

PET-CTがんドック予約受付中

「PET-CTがんドック」 ※総合東京病院の来院申込者

通常料金 108,000円 ➡ 優待料金 86,400円(税込)

※「脳検査」を追加の場合は、108,000円(税込)になります。

詳しくは、予防医学課へ

☎03-3387-5462

受付時間/月～土(日・祝除く)
AM 9:00 ~ PM 5:00

特集 認知症を理解しましょう

アルツハイマー型認知症に対する特効薬はまだ登場していませんが、進行を緩やかにするお薬はすでに4種類あり、早期から治療を開始すると一定の効果が期待されます。また、ご家族や介護者の方々が適切な対応やケアをすることによって、妄想、興奮、徘徊などのBPSDのコントロールも可能になるので、早期に診断し、適切な治療やケアを行うことが重要です。

図1 MRIで撮影した画像

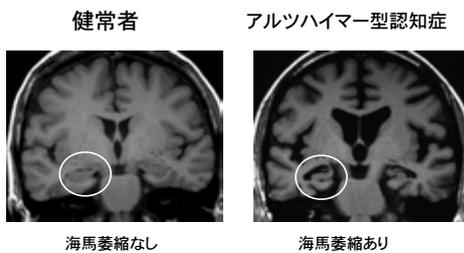
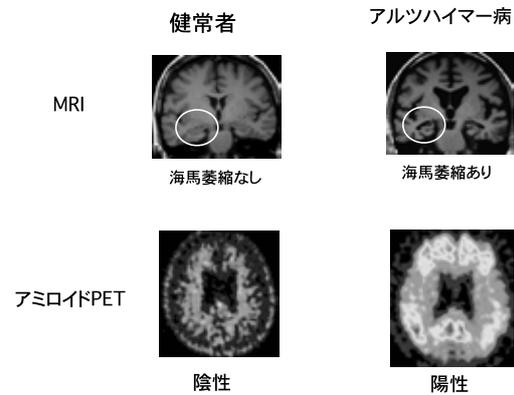
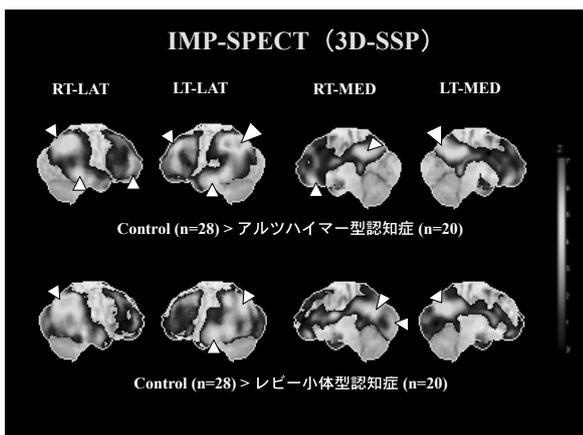
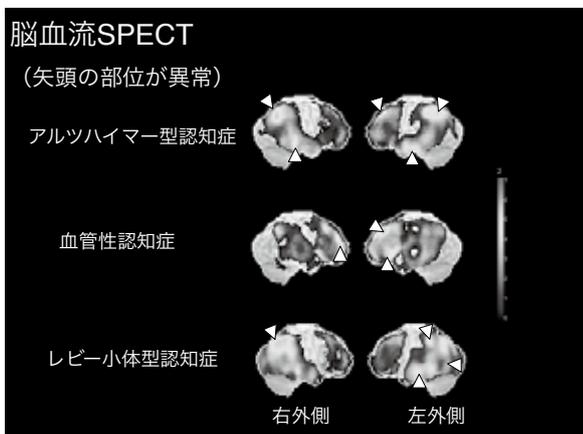


図2



■治療可能な認知症

アルツハイマー型認知症と似たような病気で、治りうる認知症もあります。甲状腺機能低下症といった内科疾患や、正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫などの脳外科的疾患はもの忘れで発症することも多く、それぞれ適切な治療によって治るため鑑別が必要です。天と地ほどの開きがあります。

■もの忘れが気になる場合は？

かかりつけの先生がいれば初めにご相談下さい。直接専門医を受診していただくことも可能ですが、もし何らかの病気で治療を受けている場合は紹介状をもっていただくことが望ましいです。

